

父と子と聖霊——三位一体の神

マタイによる福音書 28 : 16 - 20



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年6月4日

三位一体主日

上野聖ヨハネ教会にて

今日は三位一体主日です。わたしたちの信じる神は「三位一体の神」です。「父と子と聖霊なる三位一体の神」。このことについて今日はお話しします。

神さまはおひとりなのですが、三つのありようをされ、三重の働き方をされる。そう言うと難解で複雑な話と思われるかもしれませんが、これは神がわたしたちを愛し救おうとされる熱意のゆえに、ご自身のありようを変化させられるということなのです。その三つとは――

第1は父なる神、世界とわたしたちの**造り主**です。

第2は子なる神、わたしたちの主イエス・キリスト、**救い主**です。

第3は聖霊なる神、ニケヤ信経の言葉を使えば、**命の与え主**です。

それで今日は、「造り主」「救い主」「命の与え主」の三つについて、聖書に基づいてお話ししましょう。

第1に、神は「**造り主**」です。そのことは今日の旧約聖書・創世記第1章に語られていました。神は光を創造し、天地を分け、植物、動物、そして人間を創造された。わたしたちの命は神から来ています。神の創造の力と働きによって、人類が、そしてこのわたしが、皆さんひとりひとりが、誕生し、今も生かされているのです。

造り主である神さまは、わたしたちを造った後はもう知らない、放置するというものではありません。旧約聖書・イザヤ書にはこう言われています。

「わたしはあなたたちの老いる日まで、白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。」イザヤ 46:4

造った方は造ったものに対して最後まで責任を持たれる。「わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す」と言われるのです。これが父なる神、造り主なる神です。

第2に、神は「救い主」です。父なる神に対して子なる神、わたしたちの主イエス・キリストです。今日のマタイによる福音書の最後の所で、復活された救い主イエス・キリストは弟子たちにこう言われました。

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」マタイ 28:19-20

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」
このようにわたしたちと共にいることを約束し、事実共にいてくださるのが救い主イエス・キリストです。

けれども「共にいる」というのは、ただ空間的に物理的にわたしたちのそばに、傍らにいるということだけではありません。わたしたちと生死を共にする、わたしたちと運命を共にするという仕方で、徹底してわたしたちと共にいようされるのが救い主です。

まずクリスマスが出来事、降誕の意味について語っているヨハネ福音書の言葉を聞きましょう。

^{ことば}
「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」1:14

永遠の神の言葉は、肉となられた。神が人となられた。人間が肉であり、汗と涙と血を流すものであるとすれば、神も人となり肉となって、汗と涙と血を流すものとなられた。喜び、苦しみ、傷つくものとなられた。そのようにしてわたしたちの喜びと苦難を共にするために人間になられた。これがイエス・キリストです。

マタイによる福音書の8章に、イエスがペテロのしゅうとめの病を癒やされたこと、また続いて他のたくさんの病人を癒やされたことが書かれています。そのことについてマタイ福音書は続けてこう言っています。

「それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。

『彼はわたしたちの^{わずら}患いを負い、わたしたちの病を担った。』

マタイ 8:17

イエスが人々の病を癒やされたのは、ただ超能力を発揮してさらっと解決したというのではないのです。人の病をご自分の身に負って、みずから病んで、そうして愛を注ぎ情熱を傾けて癒やされた。イエスは、人の病の苦しみを苦しみ、癒やしの喜びを共に喜ばれたのです。

人は傷つく存在です。この世界の悪のゆえに、他者の罪のゆえに、自分の過ちのゆえに、わたしたちは傷つきます。傷がよほど深ければ死に至ります。そのようなわたしたちを憐れみ、その傷を癒やすために、自ら傷ついてわたしたちの傷を引き受けてくださった。それがイエス・キリストの十字架です。ペテロはこう言っています。

「キリストは十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。」

ペトロの手紙一 2:24

傷ついて、わたしたちの傷を引き受けて、わたしたちを癒やされた。そしてわたしたちを新しく生かすために復活された。これがわたしたちの救い主、子なる神イエス・キリストです。

第3に、神は聖霊、「命の与え主」です。救い主イエス・キリストがわたしたちと共にいてくださる方であるとすれば、聖霊はわたしたちの中に宿ってくださる方です。

聖霊は神の燃える愛です。聖霊がわたしたちの中に宿って、わたしたちの内側で愛の火を燃やされる。すると冷えた心は暖かくなり、失望は希望に変わります。そして聖霊は、わたしたちには漠然としていたかもしれない神さまのこと、イエス・キリストのことを、はっきりと分かるようにしてくださいます。

またパウロはこう言っています。

「同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。」

ローマの信徒への手紙 8:26

聖霊はわたしたちに宿ってわたしたちの内からわたしたちを強めてくださると同時に、わたしたちの内からうめきをもって祈ってくださる、というのです。神は本来祈りを受け、祈りを聞かれる方であるのに、聖霊なる神はわたしたちのためにわたしたちに代わって、わたしたちの内からうめき祈ってくださる。わたしたちが弱れば弱るほど、聖霊が力強く切に祈り働いて、わたしたちを神との交わりの中に生かして命を与えてくださるのです。これが命の与え主、聖霊です。

父と子と聖霊。造り主、救い主、命の与え主。このように三つのありようをとられ、三重の働きをされるひとりの神が、わたしたちの神、三位一体の神です。

個人的なことを申します。もう 10 数年前のことですが、わたしは京都の聖三一教会におりました。ある日の朝、ひとり三一教会の礼拝堂で聖書を読み、祈り、黙想していたとき、高い窓から差し込んで来る温かな光を感じました。美しい光、柔らかな光、命の光に包まれるのを感じたとき、聖三位一体の喜びが心に溢れてきました。そのとき三位一体はむつかしい理屈ではなく、わたしたちを愛される神の自由な働きであり、またわたしたちの側から捧げる神への賛美なのだと知ったのです。

わたしたちを愛し救い尽くそうとされるがゆえに、神は父と子と聖霊という三つのありようをされ、造り主、救い主、命の与え主として三重に働かれる。このような三位一体の神であってくださるので、わたしたちを完全に救うことができるのです。

父と子と聖霊なる神がわたしたちを祝福し、三位一体の奥義を悟らせ、わたしたちに信仰の喜びと力を与えてくださいますように。アーメン